

■児童・生徒の学力の状況

〈全国学力状況調査より〉
 国語、算数どちらも、都や全国の平均正答率を上回っている内容もあるが、国語では「言語事項に関する事項」「話すこと・聞くこと」、算数では「図形」「変化と関係」「データの活用」の内容で正答率を若干下回っている。

〈リーディングスキルテストより〉
 「イメージ同定」「具体例同定（辞書）」の項目において偏差値を若干上回っている。他の項目「係り受け解析」「照応解決」「同義文判定」「推論」「具体例同定」においては、偏差値を下回っている。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

国語「話すこと・聞くこと」において若干正答率が平均より下回っており、苦手意識を感じている児童が多い。授業内で、児童が思考する時間を多く設定し、グループ活動・全体での意見交換等をこれまで以上に意識し学習を進める必要がある。
 各教科の見方・考え方を働かせながら、児童同士の深い学びにつながるような手立てに課題がある。
 授業終末の振り返りでは、より良い「振り返り」や次時につながるものを共有する時間を設ける。
 →INPUT-THINK-OUTPUTの重点化
 →つなげタイムによる主体的・対話的な学びの時間の確保

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- ◎課題を自分事として捉え、主体的に学習に取り組む児童を育成するための授業展開（校内研究の充実）
- ・板橋区授業スタンダードに基づく問題解決的な授業展開の推進。「学びの連続性」の確保。
- ・前野小授業スタンダード（ハンドサインの活用、「つなげタイム」の推進）による授業規律の徹底。
- ・習熟度別授業の実施。教科主任によるOJT研修の充実。協働学習の積極的な活用により、一人一人の個性や能力を生かす指導の徹底。
- ・1人1台端末の積極的な活用。ICT担当とICT支援員による研修の充実。
- 小中一貫教育の推進…小中9年間の系統性。
- ・外国語の学習では外国語専科教員が3学年以上を指導し、教科担任制を第4学年以上、部分的に社会、理科、体育などで導入。
- OJTの推進…校内研究の活性化、チーム1校目の充実、ミドルリーダー研修、OJT制度の積極的な活用による人材育成。
- 放課後学習教室（ドッピ教室）の充実。（算数少数数担当、学力向上専門員、CS委員、地域ボランティアによる補習。）

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	「総合的な学習の時間」との連携
児童自らの感想や予想、疑問から出た問題や課題を取り入れて、課題解決的な学習を展開する。基礎的読解力の理解に繋がるような「一問一答」を意識した発問を工夫する。	教科書で学ばせる視点を明示し、INPUT-THINK-OUTPUTを意識した授業展開をする。また、授業の流れに沿った具体的なめあてを設定する。振り返りを充実させ、めあてに立ち返り、何が分かる（できる）ようになったのかを書かせる。	「つなげタイム」を設け、「思考ツール」を活用し、学び合う。 探究のプロセス「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」を単元や授業の中で繰り返し設定する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
小中一貫教育の充実に向けて、第4学年以上で教科担任制を取り入れ、スムーズな接続をねらう。 「生活科」「総合的な学習の時間」を活用して、学校間での交流を行ったり、中央図書館や教育科学館、エコポリスセンターなどの地域の施設を活用して学びを深めたりする。 学びのエリア3校で系統性のある指導ができるよう板橋iカリキュラムを活用しながら、情報共有、授業革新を進める。	教科等の横断的な視点による課題解決的な学習や探究的な学習の充実を図る。 「生活科」「総合的な学習の時間」を核にしてカリキュラム・マネジメントの充実を図る。 「生活科」「総合的な学習の時間」において「単元デザイン」を作成し、関連する教科単元を明確にすることで、教科との関連を意識して授業展開を行う。	1人1台端末を活用し、自分の考えをもつことが苦手な児童でも、友達の意見を参考にして自分の意見を出したり、深めたりすることができるようにする。 ICT担当とICT支援員による研修を充実させることにより、教職員のICTのリテラシーを向上させる。 「つなげタイム」を通して考えを共有し、一人一人が学びを深める時間を設定する。